

●ある日、地球上に人間と同じ頭の
●よさをした虫（カ）が生まれた。
●その虫は自分に「チュー助」と名
●前をつけた。チュー助には仲間が
●いた。仲間の力はしゃべることは
●できず、「ぷーん」と音を立てて
●は人間に近づき、あるものは血を
●すえ、あるものは人間につぶされ
●てしまう。そんな光景をいつも見
●てきたチュー助は思った。
●（なんでみんな、ぷーんと音を立
●てて近づくんだ。あれならたか
●れるに決まってるじゃないか）
●そこで、チュー助は人間に近づく
●時に、音を立てるのをやめた。
●すると、人間は全く気づかないの
●だ。チュー助はあわててその事を
●仲間に伝えた。
●すると、人間にたたかれる力は、
●1ひきもいなくなり、チュー助は
●チュー様とよばれるようになった

問い 1

チュー助は人間と同じ（
をした虫である。

問い 2

チュー助は次のことに気がついた
人間に近づくときに（
をたてなければいいと。